

# 埼玉県現代俳句協会報

第86号 (2024年3月20日)

## 第21回 埼玉県現代俳句大賞

《大賞》

「ゆくりなく」

北上正枝

膝ついて祈るかたちには首稽  
よく乾く赤児の肌着竹の秋  
とりわけて畑るむらさき諸葛菜  
ドロップ缶のぞく憲法記念の日  
書き出しが決まらぬ手紙残る鴨  
行過ぎた風よび戻す滑草  
葉桜や惚けないように耳のつば  
梅雨寒し絵本の家に鍵かけて  
老ゆるほどぎらぎら生きて茄子の花  
人生にK点があり草の祭  
雲水の列のまっすぐ小鳥来る  
秋夕焼石に石積む遊びせり  
ゆくりなく晴れて青大将穴に  
寂しさに順番は来る冬桜  
色のない人の行き交う極寒

《大賞受賞のことば》

今回の受賞に心から感謝し御礼申し上げます。子育てが終り、ほんやりしていた私に「俳句でもやったら」



と背中を押してくれたのが夫であった。あれから三十六年、紆余曲折のありながら、その都度よき師、よき友の御縁をいただき現在に至っている。

今はただ日本語のリズムを大切にしつつ、如何に個性的で尚且つそこはかと無き叙情が表現出来るかを日々模索している。

《経歴》

一九三八年 埼玉県本庄市生まれ  
一九八八年 「水明」入会  
一九九二年 新珠賞受賞  
一九九二年 現代俳句協会入会  
二〇〇二年 「海程」「犀」入会  
現在、海原同人。

《準賞》

「くにやり」

高木宇大

耕しや遺書に行間あるやうに  
座布団の真中にゑくば春の暮  
捨てられし野菜から花鳥雲に  
ひと雫して鮮しき夏木立  
傷痕の肉のにも色夏期講座  
脛で折る枝を火に焼べ星涼し  
ばりばりと伸ばす盆提灯の爨  
新涼やピッチカートの弦弾く

天高し尾を水平に馬駈くる

父に服着せるごとくに案山子にも

冷え冷えと見取図にあるものの翳

船の灯に川暮れてゆく年忘れ

にはとりのとさかくにやりと寝正月

雪の上に靴跡と肉球の跡

縄跳びに入る小銭の音させて

《準賞受賞のことば》

昨年は自分にとって「出来過ぎた」年でした。第24回現代俳句協会年度作品賞、そして、この度の第21回埼玉現代俳句大賞準賞を受賞することが出来ました。自分はなぜ俳句を詠んでいるのだろうか、ふと思うことがあります。まだまだ手探りの段階ではありますが、詠み続けることできつと何かが分かってくるのだらうと思いつつでした。

今回の受賞を機に、より一層、その手探りを深めてゆく所存です。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

《経歴》

平成13年 萬緑入会  
平成20年 萬緑新人賞受賞  
平成30年 銀化入会  
令和2年 雪華入会  
令和5年 第24回現代俳句協会年度作品賞受賞

現在、銀化同人、雪華同人。



第21回 埼玉県現代俳句大賞 上位得点一覧と入賞作品

Table with columns for award name, rank, score, and author. It lists winners from 1st to 10th place, including names like 桑原 三郎 and 島田 妙子.

\*今年度は上位6位までの授賞となります

《応募作品》

Table listing 30 submitted poems with their authors and titles. Authors include 長澤 健次, 増田 信雄, 鈴木 良二, etc.

第21回 埼玉県現代俳句大賞 (2023年) 選考結果

Large table showing the selection results for the 21st award, listing 10 winners and their poems across various ranks from 1st to 10th.

令和6年度定期総会・一句会

さいたま文学館 於(3月20日)

入賞者

- List of award winners and their poems: 一位 喉という不思議な楽器浮かれ猫 北上正枝, 二位 亀鳴くを待つにんげんに少し飽き 折原野歩留, etc.

句集紹介

『だんだん』

桑原三郎

発行所 ふらんす堂
発行日 令和5年9月18日
自選3句
レコードに一本の溝敗戦日
敬老の日の翌日のご老人
水平線は少し曲線冬がすみ

祝 第24回 現代俳句協会年度作品賞受賞

2023年7月15日現代俳句協会事務所において第24回現代俳句協会年度作品賞の選考委員会が開催され、応募187編中から当支部高木宇大さんが作品賞を受賞されました。

選考委員は、浦川聡子、江中真弓、こしのゆみこ、仲 寒蟬、山崎十生(五十音順)

目覚めさす

高木 宇大

たつぷりの夜を引き連れ白鳥来  
死にぎはの音とはこんなセロリ噛む  
鱈酒や吾にも挽がれしものありて  
木菟を飼つてぬさうな母の部屋  
冬あたたか犬には犬の友のゐて  
酔海鼠の幾星霜を噛みほぐす  
つぎつぎと兎抱かるることに慣れ  
鮫鱈の吊られし口の真くらやみ  
シクラメン咲いて安楽死の誘ひ  
兜煮のほほ肉ほろと涅槃西風  
春一番東京にみな攫はれて  
菜の花や水の流れてゐる根元



作品賞表彰式：第60回現代俳句全国大会

幾たびも役者は死んで臘月  
桜東風古き戸板に魚干され  
花吹雪船待つやうなしげけさに  
休日に来て麦秋に乗り換へる  
長梅雨やめし粒沈む洗ひ桶  
六月や地球しづかに病んでゆく  
螢火や耳咬むやうに囁かれ  
海の日の母のおほきないなり寿司  
平熱を測られてゐる心太  
槍投げに雄叫び加へ雲の峰

北よりの汽車濡れてゐる夏の月  
鬼百合や鉄瓶に疣びつしりと  
小鳥来る水かけろふを遊ばせて  
白桃を放ちて水を目覚めさす  
警官のやうに濡れたる鶏頭花  
月の香の残るけものを匿へり  
点眼の瑞々しきを雁渡る  
湾を出て右舷に架かる冬銀河

◆受賞第1作15句◆  
「狐の貌」

高木 宇大

街騒を稀積してゆく初しぐれ  
寒月やざくざく下ろす鬼おろし  
しあはせなふりもたいくつ鼯猫  
剣山に茎ふかぶかと山眠る  
連結はグリスにまみれ降誕祭  
人参が花へと姿変へたるも  
御降や一書にしをり紐二本  
つぎつぎと子供出てくる小かまくら  
本物を凌駕してゐる雪うさぎ  
一徹な父や氷柱のなほ太る  
湯冷めして狐のやうな貌である  
セーターを言はれるままに捨てる羽目  
白鳥や腐蝕を兆したる湖に  
寒林の真昼赦さうかと思ふ  
待春のさざ波の立つ洗面器

祝 第54回 埼玉文学賞 準賞受賞

空飛ぶくるま

山崎加津子(狭山市)

颯雲いちめん反抗期そろそろ  
少年の肩をかすめて星流る  
留守電の無音月はまんまるに  
芒原いつしか人は尾を失くし  
雪しんしん句読点のなき絵本  
内輪差大きく春がすぐそこに  
蛇穴を出て真つ先に試着室  
空飛ぶくるま総立ちのつくしんぼ  
落し角高度成長期の名残とも  
三月の雲巻き込みてカプチーノ  
物干しのシャツの影まで暖かい  
ものの芽のさんかく引越しは間近  
直球で終るニンゲ鳥雲に  
いひわけの最中めだかの産卵  
夏めくや君に続いて妻の欄  
海よりの風つかみたる蝸牛  
臨月の体温散らすかさ水  
街に桃ならび濁水注意報  
飲みさしのストローの折れ晩夏光  
真昼間にほひをたたむ白日傘

句集紹介

『風果』

高橋比呂子

◆発行所 現代俳句協会

◆発行日 令和5年12月12日

自選3句

さんたまりあのあのあたり国境  
実南天みちかけみるみるゆうらしあ  
あめのぬこぼこをろこをろとおのごろじま



■ 諸家近詠一句

- 1 外つ国の花野に増えてゆく墓標 高梨 武州
- 2 我が顔を覗くやうなる秋の蝶 辻村 麻乃
- 3 俯瞰して見る私の暮し冷奴 早乙女文子
- 4 老いてゆくことたのしまん新秋刀魚 北原 恵子
- 5 鼻先に羽毛が落ちて春の舞 田口 鷹生
- 6 風垢離も雪垢離もあり行修す 山崎 十生
- 7 少年の遠き眼差し鳥渡る 石原 道明
- 8 いなびかり足裏いつから絶壁に 茂里 美絵
- 9 衣更えして教頭のループタイ 石渡 清
- 10 爽籟や森の巣箱の小さき穴 大塚 茂子
- 11 札所へのゆるき坂道新松子 長澤 健次
- 12 水喧嘩していて憎いわけなし 尾堤 輝義
- 13 老人力こんなものと蹴る木の实 中野 博夫
- 14 賜りし命だいや障子貼る 波切 虹洋
- 15 十二月八日爪あととして生きむ 山中 未萌
- 16 目に語る以心伝心銀木屋 岡田 弘子
- 17 衰えも愛敬のうち冬隣り 片岡 宏文
- 18 仏らと笑う新米香薫けり 高橋 亨
- 19 中村哲忌誰が吹くのかハーモニカ 増田 信雄
- 20 粹に生き粹に逝きたし望の月 折原野歩留

- 21 尻もちをつきし拍子や冬に入る 池田 雅夫
- 22 礼を尽くせば霧が応えてくれしかな 小林 邦子
- 23 熱爛や大言壮言蒸発す 本橋 稀香
- 24 秋霖やふり返るたび亡者ゐて 高木 宇大
- 25 洗ひ髪ゆるく束ねて夢二の忌 松居 一江
- 26 百歳までのカウントダウン百日紅 鈴木 砂紅
- 27 階段を引きずり下ろす布団干し 久保田孝子
- 28 伏して読む「砂の女」や夜の蠅 石井 喜恵
- 29 武蔵野の比企の郡の四葩かな 小林 京子
- 30 ペコちゃんの眼秋日にぱびゅぽ 竹下 潤子
- 31 踊らないあやつり人形の秋思 杉本青三郎
- 32 古利根に水満ち雉子の見え隠れ 越川ミトミ
- 33 封筒にかすかな湿り鳥渡る 田中 朋子
- 34 初子連れ故山に集ふ秋彼岸 保坂 翔太
- 35 脳に効く落葉ふむ音一里塚 小川 紫翠
- 36 足早に去る秋ゆつくりの古希 江原 正子
- 37 子別れの橋渡る女人霧に消ゆ 加藤 圭子
- 38 まだ少し話足りない夜半の秋 久下 晴美
- 39 花束のかすみ草にも生産地 岡田 美幸
- 40 深海に波なし平和祈る夏 篠原 葦
- 41 あの秋雲わたしとポチとばあちゃん 原 博子
- 42 冷まじや人の心の壊れゆく 青木 鶴城
- 43 「どんぐりと山猫」賢治に初時雨 岡村仔志子

- 44 山彦の消えてゆくなり秋夕焼 坂川 花蓮
- 45 七五三玉砂利という滑走路 伊藤 進
- 46 医学書の横に小芥子や冬みうらら 秋永 悦子
- 47 木犀の香を包みこむこぬか雨 新井 史子
- 48 表札に家紋書き添え冬籠 丸地 正子
- 49 昼の月尻に庄されて啼くサドル 大川原弘樹
- 50 初冬や鳩飼ふ家の朝の音 山本鬼之介
- 51 隙間風止みて気になる静寂かな 網野 月を
- 52 来世は雲十一月の深海魚 渡邊 樹音
- 53 ひとり分の賄いそして長き夜 江田尚可子
- 54 庭下駄の形のままに今朝の霜 梅澤 輝翠
- 55 子がタトゥー子離れ迫る寒き朝 杉浦 理恵
- 56 黒文字をくわえ棟梁三尺寝 永野 了子
- 57 綿虫に綿虫がふれ見うしなふ 森田 鈴
- 58 帰りなむ青田の里や遠赤城 神田 一美
- 59 自然かな犀の背中に小鳥二羽 堀之内長一
- 60 焚火から離れ父のとおい背中 鳥山由貴子
- 61 秋霜の髪真つ直ぐで和らからで 鱸 久子
- 62 花八手ぼんぼんと咲き良き朝 宮崎チアキ
- 63 氷川の杜光めぐりて石路の花 神谷 邦男
- 64 マフラーで二重三重首締めてやる 後藤よしみ
- 65 無軌道な国の品格風花す 金子まさ江

(到着順)

■ 作 品 評

杉本青三郎

外つ国の花野が増えてゆく墓標 高梨 武州

花野はさびしくて静かである。ウクライナやパレスチナの終わらない戦争による犠牲者は、日に日に増えていくばかりである。歴史は当然、生者よりも死者が多いが、言うまでもなく死者はとこしえの静寂の中にある。

俯瞰して見る私の暮し冷奴 早乙女文字

自分の生活や日常を、鳥の目のように俯瞰して見るのは、日々の多忙に流されやすい中であって大切なことであろう。庶民の味方である冷奴に、緩やかに支えられていることを知るのである。

いなびかり足裏いつから絶壁に 茂里 美絵

「絶壁」という言葉の飛躍が作品を支えている。稲妻は一瞬のことであり、それが照らし出した「足裏」が「絶壁」に見えたのも、須臾のことであったのであろう。ひらがなの「いなびかり」からの急展開が面白い。

爽籟や森の巣箱の小さき穴 大塚 茂子

実際に巣箱の穴はとても小さく、これで鳥が出入り

できるものなのかと要らない心配をしてしまうのである。季語が爽やかに良く効いていて、森の中の小さな一風景として見逃せない。

封筒にかすかな湿り鳥渡る 田中 朋子

鳥が渡ってくる季節は、何かが終わって何かが始まる気がするのである。その微妙な変化は、わずかなかりの封筒の湿りで分かってしまう。

山彦の消えてゆくなり秋夕焼 坂川 花蓮

言霊のような木霊と同期するように、秋の夕焼は、短くもやわらかな時間を慈しむように、急ぎ足にゆるやかに消えていくのであろう。美しさの中に、寂しさが含まれる。

来世は雲十一月の深海魚 渡邊 樹音

生まれかわったら雲になるかもしれないと思っていいる人はいるのだろうか。それは、作者かもしれないし、十一月という特別な月の深海魚なのかもしれない。よくわからないが、惹かれる句である。

自然かな犀の背中に小鳥二羽 堀之内長一

「自然かな」という入り方は措辞でもあるのであるうか。中七と下五のありきたりのような景が、急に脚光を浴びるのである。秋の日の光の中のやさしい景として。

ネット句会「俳苦天国」結果

(俳苦天国IPより)

昨年は吟行句会ではなく、趣向を変えてネット句会を開催いたしました。

その結果をご報告いたします。

期間…令和5年10月1日～10月20日まで

参加…17名

投句数…34句(1人2句投句)

選…互選 1人8句

※8位までを表彰・景品贈呈

同点の場合は先着順で順位を決めております。

第1位 9点 天高し今日は夫を丸洗い 鈴木 砂紅

第2位 8点 それぞれの没後を語る星月夜 江原 正子

第3位 7点 口外せぬ秘密が今も胡桃の中 中野 博夫

第4位 同 月今宵膝に休めるわが十指 鈴木 砂紅

第5位 同 雲ひとつなきを淋しむ秋の湖 山崎 十生

第6位 6点 大頭不意に振り向く三島の忌 石渡 清

第7位 同 竜淵に潜む満員の終電車 杉本青三郎

第8位 同 サフランや嘘つくときに動く鼻 金子 和美

俳苦天国管理人 大川原弘樹



# 新鋭作家 競詠

## 寒稽古

磯部 美咲  
所属…梓俳句会

新品の桶に浸すや寒椿  
名水を柄杓で注ぐや寒稽古  
軽さうな母のドレスや実千両  
ロツカーに若きチーフの胼薬  
セーターやテスト範囲の多くなり

## 夢ひとつ

岡田 美幸  
所属…コールサツク句会

残り湯の柚子湯に浸す手の温さ  
クリスマスコンサート後の無のロビー  
夜は海鯨のようなバスに乗る  
通勤路ペンギン散歩めく師走  
埋火や諦めきれぬ夢ひとつ

## うすみどり

宇佐美 友海  
所属…銀化

国道に冬日継ぎ足す仕事かな  
いつまでも寒林へ向く馬の耳  
雨粒を弾く力はある毛皮  
息白しガスホルダーのうすみどり  
人体に写らぬところ冬の海

## 親子

吉川 拓真  
所属…水明、こんちえると

昆布茶に始まる朝の節料理  
初空に浮かべる人のゐることよ  
初風や親子は自然と話すもの  
紫と青の夕空お元日  
ぬばたまの常の道なる淑気かな

## 一縷

内野 義悠  
所属…炎環同人、豆の木、リブラ同人

三次元二次元一次元霧氷  
明日までにすること鷹は逃がすこと  
水涸れてまひるの羽音かるくなる  
寒波急総身に刃を滑らせて  
私信眠らせ室咲の香の底ひ

## 星座 (八十六)

吉富 快斗  
所属…楽園俳句会

少少の金をかへして冬に入り  
いつくしき若死にあつて冬重  
震ふ手にすら襞襞の厭はしき  
酒吐かれ凍つてゐたる鎖かな  
初蝶も穢れてゐたり庭を掃く

## 〈ブロックだより〉

### 県南Aブロック新春俳句会報克

一月二十九日に川口西公民館にて十名の参加を得て、開催いたしました。

今後もご参加をよろしくお願いいたします。

人のいばかりじゃ日脚伸びている  
戦くもそよぐも出来ず枯蓮  
寒中の海一枚を切る鉢  
緩る緩ると人のほぐれる日向ほこ  
どこからも鳩のさうなインバネス  
裂壊の空は鈍色冬木の芽  
寒牡丹泣かせどころと泣きどころ  
バックドロップで風を去なすは千大根  
死ぬときは本名がいい花八手  
一石の硯に能登の雪しきる

(記録…後藤よしみ)

### 埼玉ブロック

埼玉ブロックでは令和五年九月より通信句会を始めました。

現在一九名の参加を頂き、紙面での交流を楽しんでいます。(令和六年二月句会報)

石渡 清  
加藤 圭子  
坂川 花蓮  
和田 義盛  
宇田川 良子  
森 鈴  
杉浦 千祐  
石原 道明  
柳澤 二重  
金子まさ江  
田中 朋子  
原 博子  
西崎 久男  
森 光  
尾堤 輝義  
丸山 うた  
高橋 亨  
笈沼 早苗  
鈴木 砂紅  
馬の視野は三五〇度大枯野

(鈴木砂紅記)

**定期総会議事事項**

1. ブロック再編  
趣旨…会員の変動による、ブロックの整理再編する。現状の8ブロックをベースとして5ブロックに統廃合する。  
移行措置…今年一年(2024年)かけて、新ブロックへの移行を行う。

ブロックの再編				
現行ブロック		変更後ブロック		
1. 県南 A	→	1. 県南		
2. 県南 B				
3. 県南 C	→	2. 中央		
4. 入間・比企	→	3. 入間・比企		
5. 秩父	→	4. 秩父・熊谷・北埼玉		北埼玉 (行田市、羽生市、加須市)
6. 熊谷				
7. 北埼玉	→	5. 埼玉葛・北埼玉南		北埼玉南 (久喜市、白岡市、蓮田市、宮代町)
8. 埼玉葛				

2. 埼玉現代俳句協会の独自の会員制度の新規導入。  
会費2000円/年、俳句大賞参加費2000円  
3. PRの促進  
新たにIT係(IT委員)を設置し、HPを刷新する。

**第四十六回埼玉俳句大会作品募集**

本大会は埼玉県現代俳句協会が主催する俳句大会です。協会員以外の方々のご参加を歓迎いたします。

◎大会要項

日時…令和6年7月15日(月・祝) 10時受付開始、開会13時30分

会場…さいたま文学館・文学ホール

埼玉県桶川市若宮一丁目五―九

電話…048-789-1515

主催…埼玉県現代俳句協会

表彰…①事前投句 知事賞、市長賞他30位まで表彰

②当日投句 知事賞、市長賞他20位まで表彰

(共に一句高ポイント制、同一人入賞は上位のみ顕彰)

担当…第四十六回埼玉俳句大会実行委員会

実行委員長 埼玉現代俳句協会 保坂翔太

《87号の諸家近詠の一句を募集！》

下記の葉書を使って御応募下さい。  
63円切手を貼って投函ください。  
たくさんの皆様の御応募をお待ちしております。

キリトリ  
郵便はがき

〒362-0043

上尾市西宮下2―74

中野博夫行

63円切手を貼ってください。

◎事前投句募集要項

作品…2句1組・何組でも可

(未発表作品に限る。前書、ルビは不可)

投句料…2句1組につき1000円

(必ず句稿と定額小為替等を同封のこと)

締切…令和6年5月10日(金) 必着

投句先…〒337-0043

さいたま市見沼区中川440-15

染谷風子方埼玉俳句大会係

電話…090-932-4956

◎当日投句要項

作品…当季雑詠2句(受付にて投句用紙配布)

投句料…1000円(受付にてお支払いいただきます)

締切…当日12時(投句終了後13時30分の開会までは自由時間です)

キリトリ

【通信欄】



会員情報

\*令和5年1月から令和6年1月まで

【新会員】

田野倉暮夫 (和光市)  
伊藤 進 (さいたま市桜区)

古関 治恵 (八潮市)  
榎本美知子 (吉川市)

青柳 洋子 (さいたま市見沼区)  
永瀬 昌文 (川口市)

吉富 快斗 (飯能市)  
一の橋世京 (川越市)

丸山 盛久 (鴻巣市)  
遠藤 秀子 (北本市)

宇佐美友海 (新座市)  
小林 水迷 (入間市)

池田 瑠子 (さいたま市)  
篠崎 紀子 (さいたま市)

霜多 光代 (さいたま市)  
反町 修 (さいたま市)

野村 美子 (さいたま市)  
横山 君夫 (上尾市)

綿引まりこ (さいたま市)  
秋枝ゆう兒 (さいたま市)

【転入会員】

鈴木 牛後 (桶川市)  
高山 敦子 (さいたま市緑区)

【御逝去退会】  
\*謹んでお悔やみ申し上げます。

庵 幽二  
相良茉沙代

宮崎 紫水  
伊藤 和子

小泉 信

事務局だより

- 第22回吟行俳句大会は10月20日(日)を予定しております。  
担当：熊谷ブロック
- 令和5年事業報告、令和6年度事業計画は、ホームページをご覧ください。  
<https://gendaihaiku.gr.jp/>
- [俳句イン秩父] —秩父で俳句を作ろう—  
令和6年5月25日(土)会場受付11時開会13時  
秩父宮記念市民会館  
2FけやきフォーラムC室・D室  
選者：折原野歩留、杉本青三郎、山中幸石、  
村田軍司、福島時実、山村とみお、  
山崎十生  
主催：秩父むらさきの会・彩の国俳句を作る会  
後援：(社)埼玉県文化団体連合会文学部会、  
川口市文化団体連合会、埼玉県俳句連盟、  
埼玉県現代俳句協会、秩父俳句連盟、  
紫の会

2024年度会費納入のお願い

年会費 1,000円

住所 〒363-0020 埼玉県桶川市上日出谷南  
1丁目72番地13

電話 048-786-6486

振込 下記、口座記号・番号、加入者名宛

口座記号						口座番号							
0	0	1	7	0	=	2	=	4	1	3	1	8	8
加入者名						埼玉県現代俳句協会							

キ リ ト リ

電 氏 (ふりがな) 住  
話 名 所

〒 -

87号諸家近詠一句

(新かな・旧かな)  
どちらかを○で囲んでください。

(締切5月30日厳守)

キ  
リ  
ト  
リ

俳  
号

第 86 号 令和6年3月20日 発行  
 発行人 杉本青三郎  
 発行所 埼玉県現代俳句協会  
 〒332-0012 川口市本町2-6-22-103  
 電話 048-225-5603  
 編集責任者 田中朋子  
 事務局長 中野博夫  
 〒362-0043 上尾市西宮下2-74  
 電話 048-773-4693  
 事務局次長 後藤よしみ  
 〒335-0022 戸田市上戸田4-14-14-304  
 電話 080-7387-4435  
 会報編集委員 田口武、中野博夫、田中朋子  
 印刷所 コーチ印刷